

～塗り絵の風景を訪ねて～

伝法駅周辺マップ

淀川の河口に位置する伝法は戦国時代から江戸時代初期にかけて、大阪の外港として栄えたエリア。潮の香りが感じられる川沿いを歩きながら、当時の歴史を刻む寺社仏閣や建築物をたどってみては。



1 旧鴻池本店

1910年に建てられ、1968年まで鴻池組の本店として使われた木造建築。外観はセセッション、2階内部はアール・ヌーヴォーでまとめられ、創業者・鴻池忠治郎氏の居宅であった町屋が隣接しています。内部は一般非公開。

✕ 伝法駅下車 徒歩約3分
☎ 06-6245-6504



4 伝法船溜

安治川が開削されるまで、大阪湾の玄関口だった伝法川の河口に現存する船溜。大阪市漁業協同組合此花支部があり、淀川でシジミやウナギ漁を行うほか、春には大阪湾産イカナゴを販売しています。

✕ 伝法駅下車 徒歩約10分
☎ 06-6461-3750
(大阪市漁業協同組合此花支部)



3 湊標住吉神社

804年に遣唐使の航路安全を祈願して祭壇を造り、一行の帰路を迎えるため湊標を立てたのが始まりとされる神社。社名となった湊標は図案化され、大阪市の市章のデザインにもなっています。

✕ 伝法駅下車 徒歩約3分
☎ 06-6461-0775



2 正蓮寺

1625年に正蓮日宝が小庵を建てたのが始まりとされる日蓮宗の寺院。川辺で死者の霊を弔う「川施餓鬼(かわせがき)」(大阪市無形民俗文化財)は300年近く続く伝統行事で、近年は8月26日に淀川で行われています。

✕ 伝法駅下車 徒歩約8分
☎ 06-6461-2845

「#ぬりえ旅 阪神」SNS投稿キャンペーン



TwitterまたはInstagramで阪神電車公式アカウントをフォローのうえ、完成させた塗り絵作品の画像を「#ぬりえ旅阪神」をつけて投稿してください。抽選で2名様に「60色色鉛筆」が当たります。



詳しくはホームページをご確認ください。
[ぬりえ旅 阪神](http://www.hanshin.co.jp/nurietabi/) 検索

阪神なんば線10周年ラッピング電車が運行中!

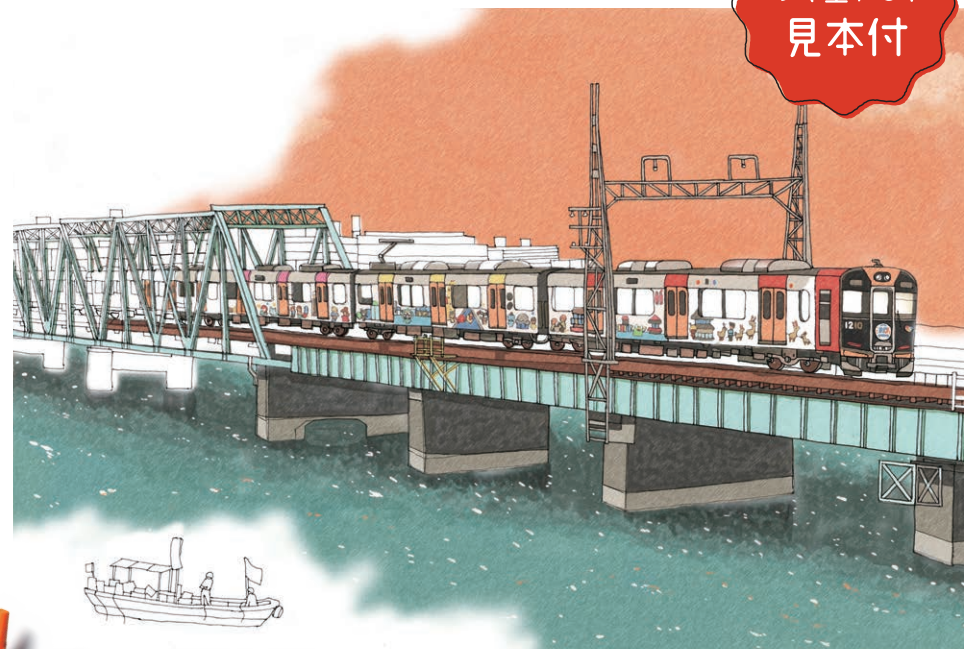


2019年3月の阪神なんば線開業10周年を記念し、記念ロゴマークを掲出したラッピング列車が運行しています。阪神沿線の施設や風景を親しみやすいデザインで描いているので、ぜひ注目してみてください。

ぬりえ旅 阪神

ぬりえが誘う、旅ゴコロ。

すぐ塗れる!
見本付



絵:もふもふ堂

伝法駅
(新淀川橋梁)



塗り絵スナップ紹介



阪神なんば線の淀川にかかる鉄道橋「新淀川橋梁」は全長758mで1924年に完成したものの、水面から橋桁までは4m程度の高さしかなく、「水面すれすれの橋」として知られていました。高潮や大雨に伴う洪水対策のため、2032年の完成を目指し、新たな橋に架け替える工事が始まりました。現在よりも下流側につくられる橋は、橋桁が今より7mほど高くなるほか、39本ある橋脚が10本に減り、増水時も川の水が流れやすく、船も運行しやすくなります。

●作家プロフィール

もふもふ堂

昭和の懐かしい神戸の風景を「箱庭」にとらえたトイボックス的イラストの制作を行っています。

「毛布に包まって眠るしあわせのように、見る人の心にやさしさを届けたい」——もふもふ堂の作品は、そんな想いから生まれています。

【作家公式サイト】

<http://mofumotudo.com/>

「ぬりえ旅 阪神」のホームページでは、アドバイズ動画や塗り絵の効用についても紹介しています。



絵：もふもふ堂「淀川橋梁」

大人の塗り絵

ワンポイントアドバイズ

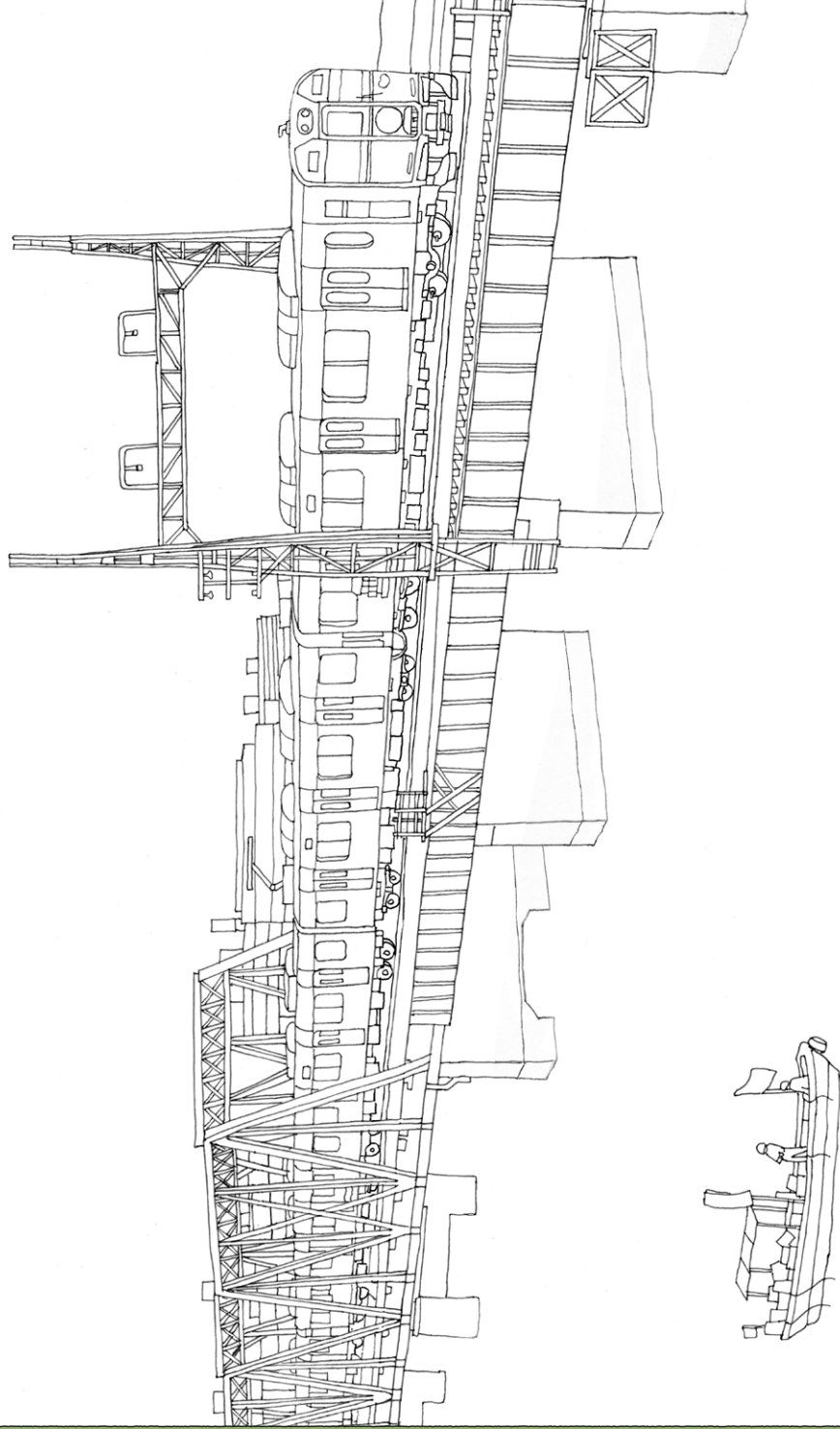
輪郭を線ですぐ描かず、面に、面塗りや表現するのが「大人の塗り絵」。薄い色を全体に塗り、陰をつけて立体感を出し、最後に様々な色を混ぜて仕上げていきます。ゆっくりに丁寧に塗りましょう。

POINT-1 「空」

原画の雰囲気になじくような色の組み合わせを考えましょう。力加減や重ねる色を確かめながら、丁寧に塗っていきます。色鉛筆を大きく動かすと鉛筆の跡が残ってしまうので、小さく動かして優しく塗り重ねましょう。

POINT-2 「淀川」

まずは橋の影を塗ります。水面のゆらゆらした感じを意識しながら、紺、緑、グレーなどの暗い色を重ねます。更に暗くするためにオレンジを重ねます。河の色は緑ではなく、色々な青と薄いオレンジなどを重ねてみましょう。



絵：もふもふ堂